

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4170500237		
法人名	(医)加茂 医院		
事業所名	グループホームやすらぎの丘		
所在地	佐賀県伊万里市大坪町甲2269-6		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	平成25年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成24年10月3日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

①週1回の主治医の往診(24時間の医療体制)
②毎日の加茂医院の看護師の容態観察(処置等)主治医への報告
③本人様、家族の希望があれば看取りを行います。
④糖尿病でインシュリン注が必要な方や在宅酸素が必要な方の受け入れが出来ます。
⑤年2回の消防訓練や心配蘇生法の訓練、災害時の訓練を職員全員で行っています。
⑥四季折々のドライブや行事参加をしています。
⑦夏祭りの開催にて地域住民の方とのふれ合いを行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

自然に恵まれた閑静な住宅地に位置し、市街地に近く、病院やスーパーなど車ですぐのところであり利便性に優れている。「真心・やすらぎ・思いやり」を施設の認知症介護の理念とし、入居者の個々の希望や想いを大切にしながら行われている。また、母体医院との連携が良好で、ターミナルの受け入れや日々の医療管理が行き届いている。協力医として眼科医・歯科医も連携し高齢期に発病しやすい病気への対応もしやすくなっている。公民館を事業所の会議に利用したり、地域の方を招く行事の開催など、地域との関係作りも丁寧に行われ、さまざまな協力や支援を受けている。スタッフ、管理者が一体となり、入居者の穏やかな暮らしの支援に努められている事業所である。
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	Aユニット	Bユニット			Aユニット	Bユニット	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は毎朝朝礼で行っているが地域密着型の理念を作りたい。	事業所の理念は毎朝朝礼で行っているが地域密着型の理念を作りたい。	朝の申し送りで理念を唱和することで実践に活かせる工夫をされている。また、地域密着型サービスの概念をさらに取り入れた、新たな理念も検討されており、より良いケアができるよう努力されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	つつじヶ丘の公民館を利用し各ユニット会議を行ったり、毎朝道路の清掃を行っている。	以前通っていた、理容室に行ったり、誕生日には利用者様の近所のレストランで食事をして自宅周辺をドライブした。	ホーム主体の夏祭りや敬老会、クリスマス会等の行事には多くの住民が参加されており、出し物の披露もあっている。学生の職場体験を受け入れ、異世代交流や後進の育成に協力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験を受け入れ、認知症についてガイダンスを行い、実際に体験をする事で認知症の理解を促している。	運営推進会議に区長さんや公民館長さん利用者の地域の区長さん等が参加され、事業所の事例報告や認知症についての質疑応答を行い啓発を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を行い、事例報告や緊急時の対応の相談やアドバイスを聞いて避難訓練等に役だっている。	夏祭り、敬老会に参加して頂き、職員の対応や利用者の方の表情を観て頂き意見をお聞きしアドバイスをユニット会議で話し合ってサービスに向上に活かしている。	会議は、地域の区長(現任・前任)、家族・行政からの参加があり、意見を受けサービス向上に活かしている。地区公民館を利用した会議は、入居者の生活に影響させない配慮と、地域の中の事業所との位置づけにもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のケアマネの研修に参加し情報交換を行っている。	コミュニティーケア会議に参加し意見交換等を行っている。	定期的な会議以外も必要時は相談できる関係が保たれている。事業所行事への参加もあり、サービスの取り組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立位が不安定で一人で出来ないのに、ベットから起き上がろうとされる為鈴を付けるなど工夫している。	身体拘束のマニュアルを作り身体拘束ゼロを目指している。	研修を行い、拘束に関しての共有認識を図るよう努力している。やむを得ない場合は家族の同意を得て対応し、その際は最小限で済むよう工夫しているが、現在ベットの4点柵を使用されている。	やむを得ない身体拘束について、同意だけでなく、検討会を実施し、解除に向けての検討を続けられることに期待したい。また、経過や検討した内容は、記録していくことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員を順番に研修に参加させている。ヒヤリはっと委員会を作り毎月1回会議をして一カ月の状況把握を行い防止に努めている。	職員を順番に研修に参加させている。ヒヤリはっと委員会を作り毎月2回会議をして一カ月の状況把握を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催のコミュニティー会議に出席し成年後見制度について学ぶ機会があった。事業所では対象者はいなかった。	市主催のコミュニティー会議に出席し成年後見制度について学ぶ機会があった。事業所では対象者はいなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホーム長がキーパーソンの家族に1時間程掛けて説明している。改定の際は利用請求明細と一緒に報告している。	契約時にホーム長がキーパーソンの家族に2時間程掛けて説明している。改定の際は利用請求明細と一緒に報告している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている。面会の時に直接家族からの要望があった時は、随時申し送りをしたり、ユニット会議で話あって、運営推進会議で報告している。	意見箱を設けている。面会の時に直接家族からの要望があった時は、随時申し送りをしたり、ユニット会議で話あって、運営推進会議で報告している。	面会時にでた入居者の意見も職員に伝えてもらうなど、コミュニケーションを大切にしてサービスの質の向上に繋がるよう努力されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時現場で聞く事もあるし、毎月1回の定例会議、ユニット会議で話し合いをして改善している。	ユニット主任が随時現場で聞いて判断する事もあるし、毎月2回の定例会議、ユニット会議で話し合いをして改善している。	職員の意見はユニット会議でまとめて定例会議で検討されている。管理者は、職員が意見を言いやすい雰囲気作りにも、気を配っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事等の参加の残業代もあるし、家庭の事情や体調不良による勤務変更も行う事が出来る。個人の長所を發揮できる環境作りをしている。	行事等の参加の残業代もあるし、家庭の事情や体調不良による勤務変更も行う事が出来る。希望休も月3日出せる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員を置き、その職員の力量にあった研修を勤務時間として参加している。	認知症実践者研修を受講した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市コミュニティー会議にて情報交換、事例検討を行いネットワーク作りをしている。	市コミュニティー会議にて情報交換、事例検討を行いネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約後に家族にゆっくり時間を作って頂き、利用者様、家族の意向、困っている事をお聞きしケアプランを作る。	契約後に家族にゆっくり時間を作って頂き、利用者様、家族の意向、困っている事をお聞きしケアプランを作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約後だけではなく、面会に来られた時等に希望等不安な事を聞いている。	契約後だけではなく、面会に来られた時等に希望等不安な事を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との面談を行い状態の把握入居前サマリー等を参考にし意向を聞き支援している。	本人・家族との面談を行い状態の把握入居前サマリー等を参考にし意向を聞き支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の関わりで利用者様の発語の中から、出来る事やりたい事を拾い上げその方のホームでの居場所作りをしている。	洗濯物たたみやゴミ袋の明記等率先してされる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況報告をしたり、家族への要望等を伝え利用者が淋しくない様に協力している。	利用請求明細と一緒に最近とった写真と状況報告を担当者がコメントを書いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所や以前行っていた場所にドライブに行く。	自宅の近所や以前行っていた場所にドライブに行く。	馴染みの美容室や床屋、また、寿司屋や図書館など職員が付き添って関係継続を大切にできる支援がなされている。また自宅へ仏壇を拝みに行けるよう家族との連絡調整も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方同志職員に遠慮しないで会話をされたり、お客さんが来られたら、接待をされる。	入居者の方が一人にならない様に「ここにおいて、ここに座っていいよ！」等の言葉かけをされている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先へ面会に行った。	死亡退去後も家族の方が遊びに来られた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意向や本人様の出来る事、したい事を、日頃の会話から判断し個別プランにて対応行っている。	家族の意向や本人様の出来る事、したい事を、日頃の会話から判断し個別プランにて対応行っている。	日常的に入居者個々の思いや意向を会話の中から把握するように努めている。発語の少ない入居者に対しては食事中の会話など通じて、言葉を聞き取る機会を多く作られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室に座椅子を置いたり、絨毯をしいたりして、以前の生活と近い環境で生活をされている。	仏壇を持って来られている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで過ごして頂いているが、体操やレクレーションをしたりする事で体力を維持し元気で健康に暮らして頂いている。	自分のペースで過ごして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の状態把握と家族の意向をお聞きし、担当者が課題をユニット会議で話し合いアイデア・意見をだし計画を立てて家族に説明し承諾も得ている。	本人様の状態把握と家族の意向をお聞きし、担当者が課題をユニット会議で話し合いアイデア・意見をだし計画を立てて家族に説明し承諾も得ている。	日頃の関わりも含め、本人の生活に対する意向を把握している。また、職員からの意見やアイデアもケアプランに反映させるよう努力されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助計画書を作成し毎日のチェックを行ったり、個別記録に記入する事で状態の変化等も情報の共有が出来き介護計画の見直しに役に立てている。	個別援助計画書を作成し毎日のチェックを行ったり、個別記録に記入する事で状態の変化等も情報の共有が出来き介護計画の見直しに役に立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お供日の子ども神輿の観覧や家族参加の敬老会を行ったり、体調不良時の病院受診等職員の勤務体系を変更したり、勤務時間を延長したりして柔軟な対応をしている。	お供日の子ども神輿の観覧や家族参加の敬老会を行ったり、体調不良時の病院受診等職員の勤務体系を変更したり、勤務時間を延長したりして柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大正琴、気功、書道等のボランティアをお願いしたり、年2回の消防訓練を消防署の方と職員と一緒に訓練している。	大正琴、気功、書道等のボランティアをお願いしたり、年2回の消防訓練を消防署の方と職員と一緒に訓練している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が医師である為、契約時に入居者及び家族に説明し事業所の協力医の変更をお願いしている。受診の結果や経過は家族に説明報告している。	週1回の理事長の往診、毎日の看護師の容態観察、24Hの医療連携が出来ている。	家族の希望により母体医院の医師が主治医となり、週に1度往診を行っている。また、母体医院から看護師の訪問が毎日あり、入居者の日々の状態をこまめに把握をされている。家族・職員からの医療面での安心度も高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の理事長の往診、毎日の看護師の容態観察、24Hの医療連携が出来ている為状態の変化があった時は上申し指示を受けている。	週1回の理事長の往診、毎日の看護師の容態観察、25Hの医療連携が出来ている為状態の変化があった時は上申し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が同行し、洗濯物等も職員が洗濯している。その後も医療ソーシャルワーカーと相談し経過の把握を行っている。	入院時には職員が同行し、洗濯物等も職員が洗濯している。その後も医療ソーシャルワーカーと相談し経過の把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホーム長より、説明し家族の意向を聞く。終末期が近付いたら、家族と主治医が面談をし、今後の方針を決める。	契約時にホーム長より、説明し家族の意向を聞く。終末期が近付いたら、家族と主治医が面談をし、今後の方針を決める。	契約時に終末期に関する指針を提示し同意書をもらっている。終末期には職員の負担を軽減する為、夜間の人員配置を増やしたり、緊急時の連絡体制を整備し、終末期支援の体制を取られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回のAEDの訓練やターミナルを経験する時に実践してきた。	年1回のAEDの訓練やターミナルを経験する時に実践してきた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年初めて9月に地震を想定した訓練を行った。運営推進会議で区長さんをお願いし第2避難場所をつつじヶ丘の公民館を使う許可を貰っている。	火災訓練は近所の広い庭を避難場所に利用させて貰っている。	年2回の火災避難訓練を実施している。隣家の協力で、庭を避難場所として提供してもらっている。避難時に両手が使えるよう、非常食を釣り用ベストに備蓄しておくなど、実践的な工夫もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	寝たきりの方も居室の入り口に暖簾を掛け寂しくないようにしています。	その方にあった話し方をし方言が良い人には方言で話したり、標準語で穏やかに話される方には標準語で話し発語が出やすい環境を作っています。	個々の入居者に合った理解できる言葉かけを行うよう努力している。排尿チェック表を利用し、さりげないトイレ誘導を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりで利用者様の発語の中から、出来る事やりたい事を拾い上げその方のホームでの居場所作りをしている。	一緒に体操をしたりレクリエーションもするが、他はテレビを観たり、居室で過ごしたり自由にして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	笑顔が出られる会話をすることで、自分の考えも言われ自由に過ごされている。	食事や口腔ケア等は言葉かけをして行っているが、1日のほとんどは自分のペースで生活されている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容と定期的な訪問美容で自分に合った髪形をされている。	毎日の衣類の交換をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	寝たきりの方も起きて来て、職員も利用者様も一緒にテーブルで食事をしている。お盆拭きは手伝って下さる。	職員も利用者様も一緒にテーブルで食事をしている。むせがある方は職員が側について様子をみながら自力食事をされている。	調理師が希望や好みなどを聞きメニュー作成し、ソフト食も個別に提供するなど、個々の希望や食事摂取能力に応じた、食事を提供されている。誕生日にはリクエストを受け、行事食を提供し、職員も一緒に楽しい雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量のチェックでその方の食べられる量の把握と1日3回の水分補給は利用者の方が飲みたい物をお聞きして好きな物を飲んで頂いている。	毎日の食事量のチェックでその方の食べられる量の把握と嚥下の悪い人もとろみをつけて水分補給をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で磨く事が出来る人は夕食後のみ残渣物の確認をし、出来ない方は毎食後口腔ケアを行っている。	自分で磨く事が出来る人は夕食後のみ残渣物の確認をし、出来ない方は毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後の排泄の誘導と時間をみて声かけを行っている。	食後の排泄の誘導と時間をみて声かけを行っている。	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し誘導するように工夫されている。また、トイレの中にカーテンを作り、プライバシーにも配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックと野菜中心の食事とミルミルやセンナ茶や牛乳を飲んで頂いている。	毎日の排泄チェックと野菜中心の食事とミルミルや牛乳を飲んで頂いている。3日以上排便が無い方は主治医の指示で浣腸を行う事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	言葉かけをして、どうしても入浴したくない方は足浴をしたり、次の日にお誘いしている。	寝たきりで入浴すると意識が無くなったりする方は、毎朝の陰部洗浄と清拭衣類の交換を行っている。	1～2日おきで入浴を支援している。拒否される場合には、清拭や足浴をで対応し、希望の入浴にも随時対応している。入浴中のコミュニケーションも大事にされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝は自ら「寝ます！」と言われるまでテレビを観たり絵合わせカルタをされて過ごされている。	自分が好きな時間までテレビを観て休まれる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的副作用は定時薬シートに添付し何時でも確認できるようにしている。新しく服用となる薬は、健康チェック表に明記し共通理解をしている。服薬後は口の中を確認して飲み残しが無い様にしている。	服薬ミスが無い様に、飲ませる職員と確認する職員を決め確実に服用出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ事が自分の仕事とっておられる方には率先してやって頂いている。	利用者様同志気を使って「ここに座りんしゃい！」等の言葉かけをされて仲良く暮らしておられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花が好きな方は四季折々の花見に行ったり、「お寿司が食べたい！」と希望があれば家族の承諾を得てお連れした。	今までの行きつけの美容室に行かれたり、家族が連れて行かれたりしている。	体調に合わせて週に数回は買い物や通院などで外出している。入居者の望む場所へ行ける様、支援されている。	



自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週月曜日にヤクルト屋さんが来る時に自分で欲しい物を買われる。	お金を扱う方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいと希望のある方はされている。	家族に電話をしたいと希望のある方はされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには「便所」と大きく書いたり、自分の部屋には表札を掛けたり、リビングはその月を感じるような掲示をして毎月替えている。	トイレには「便所」と大きく書いたり、自分の部屋には表札を掛けたり、リビングはその月を感じるような掲示をして毎月替えている。	リビングは南向きで明るく、壁面には季節を感じられる飾りつけがなされている。書道講師のボランティアによる、入居者の習字作品が展示され、入居者の意欲的な雰囲気も感じられる。庭や畑へ気軽に出やすいよう、テラスやスロープが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで休みたい人は休まれたりテレビを観たり、気の合う人同士が側に座って話をされている。	ソファに座って一緒にテレビを観られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた座椅子やカーペットを敷き自由に居室で過ごされている。	自宅から仏壇を持って来られている。	自宅で使い慣れたタンスや仏壇を置いたり、写真を飾られており居心地の良い居室作りをされている。電動ベッドの必要な入居者でも、事業所が準備し対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには便所と大きく表示し、居室には名前の表札を掛けている。	トイレには便所と大きく表示し、居室には名前の表札を掛けている。		